

## 富山県社会福祉審議会 議事録

日時：令和4年3月28日（月）

午後1時30分～3時

場所：富山県民会館401号室

### 1 開 会

### 2 挨拶（厚生部長）

### 3 議 事

#### (1) 富山県民福祉基本計画の改定について

##### 【藪下参事・厚生企画課長】（資料説明）

【岩城委員長】 ただいま事務局から説明がございましたが、この件につきまして、何かご意見等はありませんでしょうか。

【塘添委員】 視覚障害者協会の塘添です。県民基本計画の策定にあたりまして、現在新型コロナウイルスが流行している関係で、いろいろな行事、事業がこのコロナのために支障をきたしている状況が見られます。今後まだまだコロナの状況は続くだろうと多くの方、私を含めて思っているのではないかと思います。そうしたときにこの基本計画をたてるにあたって、どのように検討して、それを組み込んだものとして施策の中に反映することが求められるのではないかと思います。

【藪下参事・厚生企画課長】 今、委員がおっしゃいました件につきましては、今後当然、議論の中でも踏まえた形で、進めていただくこととなると思いますが、一方で、それぞれ個別の福祉施策ということについては、根本は基本的にそれぞれの方針ということがあるというところで、それに対してその感染症予防とか、防止というところを、また別の施策で支えていくというふうなことになるかと考えております。

【宮田委員】 私も福祉基本計画専門分科会のメンバーに入っていますので、私なりの感想を述べさせていただきます。各分野における感染症対策を計画に組み込むことは、時代の流れとして当然だと思います。むしろその作成プロセスで、オンライン、SNS等の情報発信手段も活用しながら、必ずしも関係者が一堂に寄らなくても、あるいは、委員以外の方たちが一堂に集まらなくても声が届けられる、声を拾うことができる、そんな風なプロセスもあっていいのではないかと思います。多分その辺りの趣旨も含んだ塘添委員さんのご発言であったのではないかなと受け止めております。分科会が始まりましたら、是非そのことも反映させていきたいと思っております。

【岩城委員長】 ほかにご意見、ご異議などがないようですので、本件については、今後、福祉基本計画専門分科会で議論していただいた後、この審議会の決議を経て答申することといたします。

#### 4 報告

(1) 令和4年度富山県社会福祉関係予算（案）について【藪下参事・厚生企画課長】

(2) 社会福祉関係施策の現状と課題について

【今井高齢福祉課長】【川口子ども支援課長】【辻井障害福祉課長】

(3) 富山県民福祉基本計画（第二次改定版）の進捗状況について【藪下参事・厚生企画課長】

#### 5 意見交換

【岩城委員長】 これまでの説明に関して、ご質問やご意見があればご発言ください。

【塘添委員】 富山県視覚障害者協会の塘添です。質問が2点と意見を一点、合計3点延べさせていただきますと思います。

資料3の中で述べられています、高齢者に対する移動支援のための研修会を3回ほど行っておられるようですが、具体的にどういう支援のための研修会が行われたのか、教えていただければと思います。

2つ目は、ボランティア活動者数が載っていますけれども、資料6に、地域で継続的に活動している人口10万人当たりのボランティア数、約7千人前後の数字が出てますけれども、地域で活動するとはどういう活動をしている人たちなのかという質問です。実は富山県視覚障害者協会には点訳や音訳のボランティアの献身的に活動してくださっているボランティアの人が沢山おられます。この方たちは地域というよりは富山県内を対象としたり、もしくは広い意味では全国の視覚障害者を対象にした点字図書、録音図書の制作にも携わっている。こういう人も10万人に含まれるのか教えてほしいということです。

3点目の意見ですけれども、障害者雇用率のことについてです。スタートした時点では、57.5%、そのあと56.9%に下がり、54.1%ですか。この理由として、法定障害者雇用率が2.3%に引き上げられたと理由を説明しておられましたが、これは今年、去年の4月からは2.2%から2.3%って、わずかに0.1%上がっただけなんですよね。それによって、この雇用率が下がってるのは、雇用率だけの問題じゃなくて、企業の取組みの問題も関係するんじゃないかなと思います。今後の目標も、57.5%以上というところに置いています。本当にこの障害者雇用率は、目標は100%でないかなと思うんです。それを企業の方の雇用率が、雇用が進まないから、レベルを下げてるというのでは、あまり望ましくないんじゃないかなと。はっきり言いますと、しっかりこの雇用率を上げていこうという努力が、どのように考えておられるのか、ちょっと見えてきません。フォローのため雇用率が下がっているのかもしれませんが、やはり障害者も働くことによって収入を得て生活をしていきたいというのは、多くの障害者も持っているものです。従ってこのせつかく国が作った雇用率に、近づくとことは非常に大事なことだと思いますけれども、その辺のところの見解

を教えてくださいたいと思います。

以上です。

**【今井高齢福祉課長】** 高齢福祉課から1点目のご質問にお答えします。

委員からご紹介の資料3の2の、下のところでございますね、移動支援に関する市町村向け研修会の開催と書いてでございます。国からの委託事業を活用しており、全国的に高齢者移動支援に先進的に取り組んでいらっしゃる市町村の取組み事例を、県と市町村が一緒にオンラインで、事例を発表しているといったものでございます。県内の市町村でも、移動シーンについて幾つかの市町村では、具体的な施策の検討や実施に向けた取組みがなされてきております。こういった取組みにつきまして来年度はさらに、地域包括ケアシステム伴走的支援展開ということで、従来の画一的なテーマではない支援を実施いたします。こういった市町村の実情に応じた、各地域、実情に応じました移動支援はもちろんですけども、買い物支援といったものも取組みまして、地域固有の課題を解決するために具体的に、県は専門的アドバイザーを派遣して、伴奏支援をするという取組みを来年度はさらに進めていきたいなという見通しです。

具体的には公共交通機関の不便な、バス路線の廃止や休止された地域において、例えば市町村が、民間のタクシー業者さんの力を借りながら、移動支援するといった先進事例を行うとか、そういった学びを通して具体的に、すでに県内でも導入の取組みを進めておりますけども、さらに進めていこうということで、県としても研修会を開催しているというものでございます。

**【藪下参事・厚生企画課長】** 私からはボランティア活動者数についての内訳についてのお尋ねに回答いたします。この数は、県市町村ボランティアセンターや、県民ボランティア総合支援センターによります、通知の集計でございます。今日関係課の方、欠席でございまして、詳細はまた改めて、報告させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

**【塘添委員】** メールでもいいですからまた教えてください。

**【辻井障害福祉課長】** 障害者雇用率の話について、56.1から54.1下がっているということ。法定雇用率が0.1上がったから、それだけの要因では実はなくて、対象企業が、もう少し広がったことも要因です。規模の小さい企業まで、対象を拡大したことも原因かなと思います。実際その法定雇用率と、大企業の範囲広がったことだけが要因でないとも思いますが。あと県の障害福祉計画の中での目標数値ということで、令和5年度末の目標というのは、現況以上というのが目標でございます。塘添会長が言われる通り100%というのが実は望ましいわけですし、少しでも近づけるために努力をしていくということでございます。以上です。

**【塘添委員】** ぜひ、この数字も、もう一度見検討していただければと思います。

**【岩城委員長】** ありがとうございます。ほかにご質問ありませんか

**【森下委員】** 公募委員の森下と申します。

まず資料5の2の富山県障害者計画第4次の進捗状況の表について富山型地域共生社会を実現する社会基盤生活環境の整備のところでは2番目に差別の解消、権利擁護の推進及び虐待の防止ということで、その障害のある人に対する差別があると思う人、少しはあると思うという答える割合について、令和5年度末の目標値に減少させるというふうに書いてありますけど、これは数値が出ないっていうか、出せないのか、或いは減少させるってどういう意味合いはどの程度なのか、取り方によっては、やめるといような意味合いにも取れるので、これがどういう計画を当局がなされるのか、少し聞きたいという点が1点。

資料4-2の子ども食堂への取組みに、民間あるいは社協さんが今、積極的に取り組まれていると思いますけど、例えば年間2、3回とか行うという取組みのところは割と多いのではないかなと見て、やはりNPOなどを主体とした責任ある団体に子ども食堂の取組みを広げていただけないものかということが2点目。

それと、資料6の介護職員数が2020年度の実績が、1万9,060人になっていますが、今後高齢化が増えるに従って、少しずつ増やす計画でありますけれど、9,000円の賃金の予定を実施されて、各施設で9,000円の補助が出るよなんですけど、これは秋までだというふうにお聞きしています。介護職員の賃金がやっぱり低いために、新しい若い方がなかなか就職してこないという現状がある中で、いろんな面から、福祉のPRとか或いは県独自の補助ができればあってもいいのかなというところもあります。

それと資料6の3ページ目、自殺死亡率が、2020年度、19%ですが、自殺死亡率の対策はどうなっているのかなというところが少し疑問点です。昔から富山県は自殺死亡率が高い県だったというふうに認識しています。そのために、相談とか厚生センターとかもちろんあると思うんですが、例えば自殺の恐れのある方、若い方からお年寄りまでいろいろだと思うんですが、そういう自殺する恐れのある方のサポーターっていうのは、必要ではないかなあと、専門家からボランティアからそういうことの工夫があってもよいのではないかなというふうに思います。

それからケアネット活動の取組み数は、徐々に増えていきますけど、人口減少の市町村が富山県内でも増えてきていまして、ケアネット活動は割と年配の方々に支えられているところが結構ありますので、このままでいくと、目標が達成できるかどうかという危惧がございます。市町村によっては自治会も成り立たないっていうところまでできている状況でございます。私見ですけど、昨日「えざらい」の作業をしたところ、私の地区の方々高齢化のために、年々参加者が少なくなっているという現状もあります。いろいろな事業がやはりやりにくいというふうなところが出始めているということが思います。

あともう1点、検証のスペンが長期のものとして、成年後見制度の申立件数が386件というふうになっていますけど、これは例えば、市町村の窓口、各15市町村で、成年後見制度の相談の窓口は、今ありますけど、窓口以外の他の課が知らない課も結構あります。相談はするけど、細かいことの相談ができる、市町村の職員がいないという現状があるということです。市町村にも、もう少し支援というか専門家のアドバイザーとかもあってもいいかなと。一人暮らしの高齢者とか、一人暮らしの障害の方もいることだし、今後ますます成年後見制度も後見人等が必要になってくるというふうに思いますので、支援につなげるように、或いは充実させるようお願いしたいというふうに思います。以上でございます。

【辻井障害福祉課長】 障害福祉課です。ご質問の1番目、資料5の障害のある人への差別があると思う人の割合の話でございますけれども、目標は減少させるということでございます。計画策定時は59.8ということでありまして、目標としては0が一番望ましいんですけども、なかなか数値も立てにくいというところもありまして、減少させるという目標にさせていただいております。私からは以上です。

【川口子ども支援課長】 子ども食堂の取組みについてご意見いただきありがとうございます。子ども食堂につきましては確かに地域の有志の方々に、やっただいてるところもありますし、また地区の社協さんや社会福祉法人さんが取り組んでいただくところなど、それぞれの立場で取り組んでいただいているところかと思っております。こうした取組がさらに広がるように、県としてもこれまで、例えば開設にあたって、必要な什器などをそろえる経費として、市町村とともに、立ち上がりの経費を助成して参りました。また開設を予定しておられる方向への研修会といったものもしております。その他ネットワークの事務局を県でしてありまして、子ども食堂さんの交流会ですとか、情報交換などといったこともしております。

県としてはこうしたことで、子ども食堂の取組の広がりをさらに進めていければと思っております。

【藪下参事・厚生企画課長】 ケアネットについて年配者の方が割合高いとか、「えざらい」に参加されたところ、またなかなかその若手が見えてないので、将来が心配だというお話でございました。ケアネット活動をいろんな取組みに使っていただけたところございまして、例えば公民館を活用した、ふれあいサロンにも使えるような仕組みになっております。そういったところでは、集まって町内の方の顔見知りになっていただけたようなところございます。地域の困り事とか、例えばその「えざらい」の人が足りないってこととなると、少し自分たちもやらなきゃというような、繋がりができればそういった気持ちも、なりやすいのかなというところでうまく進めていければいいなと思っております。

それから成年後見制度ですが、市町村の方も、なかなか担当課さん以外が少々繋がりにくいというお話でした。まず、高齢の方や障害の方などもっと本当に必要な方には使っていただければならないんですけども、まず市町村の職員の方にも、もう少し制度を詳しく理解していただきたいというところで、研修会を開いていますので、まずそのご担当の職員の方から、もう少しどういったことができるのか研修をしっかりとやっていきたいと思っております。

それから、自殺防止について、担当課欠席しておりますが、ネットで例えば「死にたい」とかかっていうような（文字を）打ち込むと、相談先が出てくるということもやっております。それからご本人のところに直接出向いて、相談に応じるようなアウトリーチ型の体制も整えておりますので、何とか自殺に至らないように、引き続き進めたいとおもいます。

## 5 意見交換

【岩城委員長】 次は、富山県民福祉基本計画に関する意見交換でございます。新計画については、今後、基本計画専門分科会で具体的な検討がされますが、その前提となる福祉を取り巻く環境変

化、現状や課題等を整理できればと思います。

まずは、事務局から配付資料に基づき説明をお願いします。

【藪下参事・厚生企画課長】 時間も押して参りますので、資料 7-1、7-2 につきましては、紙面をご参照いただければと思います。

【岩城委員長】 これから富山県における福祉について、日頃お考えのことなど、ご意見を伺いたいと思います。

【細川委員】 私は知的障害者の親の会で活動しています。今、知的障害者の高齢化が急に進んでおります。何日か前のニュースでは、例えばダウン症児は、この 50 年間で寿命が 50 年伸びたと言われていました。ですが、地域で親が中心になって支えているという状況は変わっておりません。親が高齢になっておりますので、やがては親から社会へバトンタッチしなければいけないと、今活動を進めているところです。最後の砦が入所施設と親はずっと思ってきましたが、今入所施設はすでに高齢化と重度者ばかりになっております。一方では高齢者、重度者のグループホームは不十分です。また高齢になっても障害特性に合った支援が受けられることが必要になってくると思いますが、なかなか重度者、高齢者の受け皿づくりが進んでいないように思われます。是非とも今後、親も高齢化しておりますので、よろしく願いいたします。

【辻井障害福祉課長】 ご意見ありがとうございます。グループホームの施設の整備でありますとか、人材の育成にまた努めて参りたいと思います。

## 6 その他

【岩城委員長】 その他何かご質問等はございませんでしょうか。

最後に木内部長から何か一言ございましたらお願いいたします。

【木内厚生部長】 後ろに紙がついておりますとおり、ご意見を紙でご提出いただくという形もとれるかと思えます。この後分科会での議論を進めますし、個別の計画はそれぞれの会議でご議論いただいておりますので、そうした中で引き続きご意見いただければと思っております。

## 7 閉会